

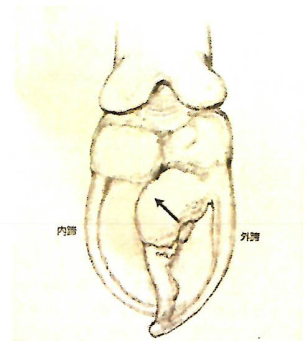
ダッチメソッドとカンザスメソッド

＜ダッチメソッドの成り立ち＞

ダッチメソッドは、約 30 年前、それまで経験的に行っていた削蹄を理論に基づき、標準的な手順としてまとめたものです。当時は繋ぎ飼い牛舎が主であり、その飼育環境に合わせた削蹄方法としてダッチメソッドがまとめられたようです。しかし、現在はフリーストール牛舎などが増え、ダッチメソッドに対する様々な追加点、修正点が検討されています。その中で、カンザスメソッドというものを紹介します。

＜フリーストールの蹄＞

フリーストール牛の蹄はつなぎ牛舎でみられる形とは若干異なっており、蹄底がやや内側に傾き、さらに軸側の蹄踵が過剰成長し突出するようになります（右図）。必然的にフリーストール牛舎の蹄に対してはダッチメソッドにも多少の変更が必要になります。



＜カンザスメソッドとは＞

カンザスメソッドとはフリーストールで飼養されている牛に対する削蹄方法で、基本はダッチメソッドと同じです。変更点は、右図 Figure1 とその下の写真に示したように蹄底をやや内側に傾斜するように削蹄することです。蹄を地面に負重したときに内外蹄はやや開くので、肢を拳上して削蹄する時には傾斜をつけた方がフリーストール牛舎には適しているようです。実際どのくらいの傾斜が必要かということ、3～4度ということのようです。

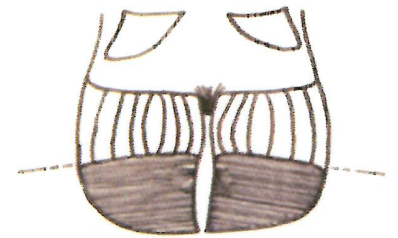


Figure 1. Kansas Adaptation



次回は他の削蹄方法についても紹介してみたいと思います。

参考文献

「牛蹄の機能的削蹄方法とその展開」 臨床獣医 2008. Dec. Vol. 26, No12

「The Kansas Adaptation to the Dutch Hoof Trimming Method」 Ladd Siebert

Yusuke IWASAWA